

「研究大学強化促進事業」中間評価 進捗状況概要 岡山大学

目的

岡山大学は強みの研究分野である「物理学」及び「基礎生命科学」分野の研究拠点を軸に、**研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構」(G研究機構)**を新設し、研究に専念できる環境整備、研究支援人材の増強配置、URAの強化、国際共同研究の推進及び産との連携強化を図り、研究力強化を行う。さらに、新たな強みとなる研究領域の発掘・育成を行い、大学全体の研究力強化につなげる。本事業を通して、当該分野で「世界で研究の量(論文数)・質(被引用数)ともに存在感を示す**「リサーチ・ユニバーシティ(研究大学):岡山大学」**を確立する。

これまでの実績・進捗状況

- A** ◆高度研究マネジメント人材“岡山大学URA”の樹立
- ✓ 大学、企業、海外から秀逸な人材を自己資金を含め8名採用
 - ✓ 学長直属組織として、「リサーチ・ユニバーシティ:岡山大学」を推進
 - ✓ 多岐にわたるミッションの企画、立案、調整、推進
「研究戦略」、「研究広報強化」、
「アカデミア、ビジネス界における国際連携強化」、
「大型プロジェクト実施」
- ◆キャリアアップ
- ✓ 一般URAから副理事へのキャリアパス
 - ・ 主任URA、上級URAから副理事を任命
 - ✓ URA評価を実施
 - ・ 一般URAより主任URAに昇格
 - ・ URAの昇給
- ◆海外研修等を活用した人材の育成
- ✓ 幅広い研修プログラムの活用、OJT

- B** ◆G研究機構による重点的研究力強化
- ✓ 3研究コア、5サテライト研究コアを選出し、重点支援を実施
 - ・ 物理学・基礎生命科学分野のQ値、国際共著率ともに増加。大学全体も増加
 - ・ 研究コアが、文科省予算措置の全学研究所「異分野基礎科学研究所」に発展
サテライト研究コアを含む全学センターが「惑星物質研究所」に改組・拡充
資源植物科学研究所と併せ、3研究所を有す研究大学に発展
- ◆研究支援力強化
- ✓ 学内共同実験施設の環境整備及び専門人材の増強
- ◆研究推進産学官連携機構の強化
- ✓ 研究推進及び知的財産マネジメント、産学官連携を担う専門人材の増強
- ◆研究広報活動の強化
- ✓ 「e-Bulletin」「OU-Medical Update」「Nature Index Research Highlight」等
を活用し戦略的研究情報発信を実施。
 - ✓ 内部人材の育成・活用による広報力の強化
- ◆国際連携強化
- ✓ 海外大学を訪問し、研究者交流を実施、国際共同研究を増加

今後5年間の将来構想

- ・スーパーグローバル大学、研究大学、革新的医療技術創出拠点として、国連の「持続的な開発目標(SDGs)」で求められる**「社会のための科学」を先導**
- ・G研究機構(研究力強化インキュベーションシステム)を活用した、強み研究の発掘・育成・強化【**基礎科学力の強化**】【**大学全体への波及効果**】
- ・得られた研究成果を産学官金連携に繋げることで、イノベーション創出、地域創生を推進【**産学官金連携の深化**】
- ・基礎科学力の強化と産学官金連携の深化と制度改革を推進【**持続的に発展する研究大学への移行**】
- ・URA等の人材の自家育成、URAの内在化を進め、高度研究マネジメント人材を確保【**URA制度の定着**】

中間評価結果

評点区分: B

全体に対する所見

URA の活用・継続性と将来性についての具体的な方策が見えず、今後 5 年間の本事業のビジョンに対する URA の活動の明確化、自主財源の確保と最適な配置数等を早急に検討することが望まれる。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

学長を中心とした研究マネジメントの仕組みに取り組まれており、強みとする分野で成果が出ていることは評価できる。研究成果の社会への還元に向けた取組の検討が必要と考えられる。

今後5年間の将来構想に対する所見

IRを基とした研究力強化に向けた具体的な戦略が望まれる。また、研究戦略の実現に向けた URA の役割の明確化が必要であり、URA の評価システム等についても検討し、定着に向けた仕組み作りへの積極的な取組が望まれる。